

気の流下が大きい働きをしている。これら冷気湖と朝霧発生との関係は、吉城高校地学部の研究で確かめられている。

しかし、霧(L)と霧(H)の違いについては、冷気湖の構造が原因ではなからうかという推測の範囲を出ていない。そこで、霧(L)と霧(H)の違いと、盆地に形成される冷気湖の関係を明らかにするため、毎日朝霧が発生した日としない日の気温(鉛直分布も含む)・地温・風などを丹念に測定し、比較検討したい。

(2) 朝霧の分布域については、ランドサット画像を利用した研究(下畑, 1989)がある。しかし、その段階で朝霧の写っている写真が3例しかなかった。したがって、分布域と気象要素や気圧配置などとの関係を、十分検討できなかった。そこで、できるだけ多くの観測データを得るため、1990年から古川・高山両盆地及びその周辺において、小中高校の教師を中心に飛驒朝霧研究会を組織した。朝霧の分布・上限と下限の高度および消滅時

間等についての観測を始めた。この観測結果をもとに、飛驒の盆地における朝霧の分布と発生とのメカニズムを解明したいと考えている。

謝 辞

本稿をまとめるに当たって、岐阜県立益田南高校の中田裕一氏には種々ご助言をいただいた。記して感謝したい。

参考文献

下畑五夫, 1987: 飛驒の朝霧の話, 岐阜県地学教育, 23, 23-27.
 ———, 1988: 続 飛驒の朝霧の話, 岐阜県地学教育, 24, 52-59.
 ———, 1989: 続々 飛驒の朝霧の話, 岐阜県地学教育, 25, 6-12.
 ———, 1990: 霧に沈む盆地, 岐阜県郷土資料研究協議会会報, 56, 9-13.

日本気象学会および関連学会行事予定

行 事 名	開 催 年 月 日	主 催 団 体 等	場 所	備 考
集中豪雨と洪水に関する国際シンポジウム	1992年10月5日 ～9日	中国国家科学技術委員会 水利局, 気象局	中国安徽省黄山市	Vol. 39, No. 3
日本気象学会 1992年度秋季大会	1992年10月7日 ～9日	日本気象学会	教育文化会館(札幌)	Vol. 39, No. 5
1992年度日本雪氷学会 全国大会	1992年10月20日 ～23日	日本雪氷学会	北海道大学学術交流会館	
テクノ・オーシャン '92国際シンポジウム	1992年10月21日 ～23日	国際海洋外学技術協会	横浜国際平和会議場	
長期予報と大気大循環	1992年10月26日	気象庁予報部 長期予報課	気象庁第1会議室	Vol. 39, No. 6
第29回自然災害科学総合 シンポジウム	1992年11月4日	重点領域「自然災害」総合 研究班	秋田市文化会館(秋田)	Vol. 39, No. 4
第11回日本自然災害学会 学術講演会	1992年11月5日 ～6日	日本自然災害学会	秋田市文化会館(秋田)	Vol. 39, No. 4
第33回大気汚染学会	1992年12月1日 ～3日	大気汚染学会	大阪国際交流センター (大阪)	
第12回風工学シンポジウ ム	1992年12月3日 ～4日	シンポジウム運営委員会	建築会館ホール(東京)	Vol. 38, No. 12
「オホーツク海と流水」 国際シンポジウムおよび 国際宇宙年・極域水圏 ワークショップ	1993年1月31日 ～2月5日	オホーツク海・氷海研究 グループ, 宇宙開発事業 団, 欧州宇宙機関, 紋別 市, 北方圏センター	紋別市民会館・文化会館 (紋別)	